



まつり新世紀

今年のベイタウンまつりは三年間つづいたプロムナードに別れを告げ、二丁目公園を会場に行われた。準備段階ではマンネリ化を心配する声もあったが、晴天と二丁目公園での開催という実行委員会の好判断で、過去3回以上の盛り上がりになった。



第一回大会以来トロフィーを守り続けて来た5番街を押さえ、綱引き大会で見事優勝を果たした、公園東の街チーム。



祝4周年、ベイタウンと「BTニュース」の歩み

1997年5月の創刊から、ベイタウンニュースは5年目を迎えます。街の魅力を発掘し、ホットな話題を伝え、あるときは論争を巻き起こし、世論に問題を投げかけ、住民参加のまちづくりのきっかけづくりの役割を果たしてきました。ベイタウンとともに、人との出会いをパワーにして進化し続けます。これからも応援してください(配布数4000部)

ベイタウン&ニュース年表

1995年

- 2月 街開きイベント
- 3月 パティオス1~6番街入居始まる。1540人
- 4月 打瀬小学校・打瀬中学校開校
- 12月 パティオス7・9番街入居

1996年

- 3月 パティオス8・10・11・12番街入居。打瀬小、手作り校章と校歌できる。2912人
- 5月 企業庁主催ベイタウンまつり開催
- 11月 かるがも館オープン
- 12月 ミラリオ1次入居。4013人

1997年

- 3月 ミラリオ2次、16~18番街入居。第1回コミュニティコア研究会。4764人
- 4月 京成電鉄と平和交通の路線バス開業
- 5月 幕張ベイタウンニュース創刊(誌名は公募により決定。名付け親は17番街の柴崎さん)
- 6月 自治会連合会発足(愛称は公募により17番街佐藤総一さんの「ベイタウンこむこむ」に決定)
- 8月 ベイタウンネット発足
- 9月 24時間営業ファミリーレストラン問題について初めてのアンケート調査をニュース誌上で実施。
- 10月 打瀬中学校での住民コンサート開催
- 12月 ベイタウンファミリーコンサート、第1回ウインターフェスティバル



1998年

- 1月 長野オリンピック聖火ランナー、ベイタウンを通過
- 2月 ベイタウンニュースの星座特集をきっかけに1番街に牛のモニュメント戻る
- 3月 パティオス13番街・ミラリオ3次入居。リンコス開店。5968人
- 4月 子どもルームオープン
- 5月 「幕張ベイタウン」商標登録。住民主催第1回ベイタウンまつり開催。幕張海浜公園でオヤジ狩り発生
- 8月 ミラリオ4次入居。「こども110番」始まる。ベイタウン大停電(原因は鳥の営巣活動でハンガーが電柱に引っかかっていたためとニュースで伝える)。6359人
- 12月 ベイタウンニュースに「変質者」の記事

1999年

- 1月 ベイタウンニュース「年男男女企画」始まる
- 3月 グランパティオス公園西の街1・2番館入居。ベイタウンニュース別冊「きょういくベイタウン」創刊。6734人
- 4月 ベイタウンニュースサポーター制度始まる
- 7月 パティオス15番街入居。幕張メッセ駐車場でGLAYコンサート。7041人
- 8月 グランパティオス公園東の街第1期入居。7927人
- 9月 セントラルパークウエスト第1期入居。コミュニティコア研究会第1回全体会議。8526人

- 10月 ベイタウンがグッドデザイン賞受賞
- 11月 ベイタウンニュース「ふとん干し問題」論争
- 12月 2番街に「こむこむ掲示板」開設

2000年

- 1月 柏レイソル北嶋選手、打瀬小に来る。ニュースの1面飾る
- 2月 連載「WHO'S WHO」始まる。公園東の街で配布の会スタート
- 3月 「マリーンデッキ」開通(名付け親は16番街上杉さん)。グランパティオス公園西の街3・4番館入居。8912人
- 6月 グランパティオス公園東の街第2期入居。ベイタウンフォーラム開催、ニュースではその模様を総力取材。企業庁の「ベイタウン事業の変更にかかわる説明会」開催
- 8月 ベイタウンニュースに中学生記者登場
- 10月 ガーデンウォーク幕張オープン
- 11月 教育フォーラム開催
- 12月 カルフルオープン。5周年記念チャリティコンサート開催

2001年

- 1月 ニュース新年号「新春ほろ酔い座談会」でスタート。シニアクラブ新春茶話会
- 3月 グランパティオス公園西の街5番館・シータワー入居開始
- 4月 海浜打瀬小学校開校

ベイタウンニュースの4年間を支えるサポーター

ベイタウンニュースは、ボランティアの住民の手で全戸に配布しています。多いところでミラリオの450戸、GPWの420戸、少ないところで4番街の115戸。毎月第1土曜日の10:00から10番街の集会室で、編集員とサポーターが集まり、折り込みや配布をしています。(現在、サポーター数は40名弱。その中で配布日に都合のつく方だけが参加。)折り込み作業中は、皆さん、席の近い人たちと世間話、記事の話や自治会立ち上げ作戦、近況報告などを、さながら「月に一度の情報交換会」のように楽しみながら作業をしています。折り込み作業後、担当する番街の郵便受けに配って帰宅という手順です。



■サポーターってどんな人？

CPWの小野さん、最首さん、森田さんはベイタウンに越してくる前に同じマンションに住んでいてお子さんの学年も同じ、趣味も同じテニスという仲良し三人組。参加したきっかけは、やはり前に同じマンションに住んでいた、テニス仲間の辻さん(8番街)にすすめられたから。「月に一度、昔の仲間と顔を合わせておしゃべりが出来るので楽しみ。帰りに、『お疲れ様』とコロラドでコーヒーを飲みながらもうしゃべりする事も。今後は、配布会にシータワーの方も来てくれるようになるかと嬉しいのですが…。」(森田さん)

同じCPWの後藤さん、「ベイタウンの『ボランティアの会』でメッセに行った時に、松村さんに誘われてサポーターになりました。CPWは、偶々各棟にひとりずついるので、郵便受けに配る時も、楽です。」

11番街の大畑さんは「自分が表紙に写った“2001年・年男男女特集号を配布会の時もらいに行って、松村さんにスカウトされました。第1号から知っていましたが…まさか、自分が配る方になるとは思っていませんでした。配り始めて実感した事は、自分の番街が190世帯と、パティオスの中で多い方に入るという事やポストの位置の不規則さ。でも先輩サポーターの小谷崎さんに教えてもらい、ポストの位置も今ではバッチリ!この間は、広告を入れている人と同時配布でバトルになったのですが(先に入れないと、郵便受けに入れにくくなるので)、位置を把握していたので、楽勝!(笑)…というような事も楽しみながら(?)、ベイタウンに対する恩返しができるかと思っています。」

「自分たちの力で、いろいろな事が出来るベイタウンが好きで、この街の“縁の下の力持ち”になれるように…と思参加しています。」と言うのは、15番街の鈴木さん。「ベイタウンネットに“交通安全問題”で書き込んだのがきっかけで、17番街の柴崎さんと知り合い、誘われて参加したのが最初です。配布会に行った第一印象は、全戸配布でたくさんの人たちが恩恵を受けている筈なのに、自主的にサポーターとして参加している人数が、あまりにも少ないという事。地域ボランティアの意識が高まって、これから参加者が増える」とよ

中学生@ベイトウンまつり

今年のベイトウンまつりでは、子どもたち、特に中学生の姿が多く見られた。例年中生たちは部活や三年生の修学旅行などがあり、参加が少ないことが気がかりであったが、今年のベイトウンまつりはちがった。まつり実行委員長の佐藤さんから、「中学生だけでお店を出していたグループがあった」という話を聞き、早速取材した。

ベイトウンまつりに出店していたのは、編集部を知る範囲では2グループ。打瀬中学校1年生女子の「そばめし」屋と同3年生女子のフリーマーケット。今回はこのうち1年女子の「そばめし」グループの3人が取材に応じてくれた。中学1年生とは言っても、つい3カ月前までは小学生。大人達に混じって自分たちだけでお店を出すというのも相当勇気のいる企画だ。自分の中学時代ならとてもできない、そんなことを考えながら話を聞かせてもらった。

店を出したきっかけは、「前に仲のいい友達同士でバーベキューをやったときに、焼きそばとご飯を混ぜて焼くとおいしかったので、それをみんなにも食べてもらいたかった」と模範的すぎるような答えだが、話を聞くとまんざら作り話でもないようだ。というのも、彼女たち、お店屋さんを出すのが夢で、「お店やさんごっこ」をよくやったらしく、今回の出店もその延長で「ごっこの夢を本当にさせたかった」というのが第一の理由だったらしい。ベイトウンまつりなら実現できそうということで早速仲間を集め、小学生時代から仲の良かった7人ですぐに話はまとまった。これにはメンバーのほとんどが同じソフトテニス部員だったということも幸いしたようだ。

話が決まるとすぐに実行。1年生とはいえやることに手抜きはない。食材の調達や看板作りを手分けしながら、中学校の先生にもきちんと許可を取った。担任の先生と教頭先生、部活の先生にも練習を休むので許しを得たという。地域の催しに積極的に参加する子どもたちを学校も応援してくれたということか。むしろ父兄の方が心配し

て、あれこれ手を貸そうとしたらしいが、彼女たちは「自分たちだけでやるので、手を出さないで」と断ったという。

まつりの当日は早朝から大忙しだった。さすがに12番街から借りた重い机を運ぶのは、お父さんの手を借りたが、設営や調理などあとはすべて自分たちでやった。

こう書くと順風満帆のようだが、試練はここからだった。直前にまとまった企画で申し込みが遅かったせいか、割り当てられた場所はまつりの目抜き通りからは最も奥まっていた。また1食350円の値段段のをつけた店の前では、他のお店が焼きそば1食250円の値札をつけていた。しかもこちらは中学生。最初のお客さんからは「なにか変なもの入ってないか」と言われたという。100食仕入れた食材を売り切ることができ

るか、真剣に悩んだそうだ。しかし、いいこともあった。隣でサッカーの打瀬PAPASのお父さんたちが、キックの賞品にと言っておそばめしを何食も買ってくれた。同級生たちがおいしいと言って口コミで宣伝してくれた。これで風向きが変わった。午前11時半頃からは急に売れ始め、焼くのも間に合わないほどの盛況になり、用意した100食ではとても足りなくなった。急いで50食を追加で買いに行き注文に応えたが、それもすぐに売り切り、結局まつりが終わる前に店じまいになってしまった。

途中値段を350円から300円に下げたこともあって大儲けとはいかなかったが、それでも閉めてみると結構な利益だった。しかしもともと儲けることを頭に始めたこと



そばめしを出店した1年生グループのうちの3人（写真左から河原さん、安部さん、金子さん）。

ではなかったのも、お金は仲間でおいしいものを食べて打ち上げに使い、残ったお金は練習を休んだテニス部の部費にと寄付したそうだ。

インタビューに応じてくれた1年生の子どもたちは、とても屈託のない、明るくきらり輝く中学生だった。取材費から出した喫茶店のオレンジジュースをおいしそうに飲む彼女たちを見ていると、こちらまで元気を分けてもらえるようで、とても気持ちのいいインタビューだった。

打瀬中学校からはこの他にも、3年生女子のフリーマーケット出店があった。こちらの方は3人組。うち二人は昨年のベイトウンニュース中学生記者もつとめたツワモノだが、修学旅行間近で直接のインタビューはできず、メンバーの富川さんにEメールで感想を聞かせてもらった。

問：メンバーは何人で、どんなお店を？

答：うちのメンバーは基本的には太田、寺下、富川の三人でした。でも太田さんのお母さんも売りこみ手伝ってくれたり、学校の友達も色々宣伝してくれたりしました。時々、営業妨害に近い場面も（笑）。お店はフリーマーケットで、家にあった洋服、かばん、まんが、ゲームソフト、アクセサリ、人形、本など、ほとんど何でも屋さんでした。私たちがいるのを見て、西の街のOさんが「このお皿とコップ売っていいよ」と持って来てくれたりもしました。太田さんの手作り商品が小学生に大人気!! 設定値段よりかなり値切られたり、「あ～もういいよ〇〇円で!!」ってこっちから200円～300円値下げは当たり前になってました。特に関西の方は値切り上～手。

問：まつりの後、友達や学校での反応は。

答：色々聞かれましたよ。特に「売上金」について・・・。「稼いだ金くれ!」とか言ってきた人もいたし（笑）。（以上富川さん）。また太田さんからは、「いろんな人が来てくれたので嬉しかったです。さし入れを待って来てくれたり、一緒に売ってくれたり、本当に楽しかったです。同じ部活の人や後輩・・・。地域の方々。品物を新しく出すたびに誰か見てってくれるし、商品の宣伝になるようなことを呼びかければ来てくれるし、本当に楽しい一日でした。また出したい!!」と感想を寄せてくれた。【松村】



「わくわくお話し会」からのお知らせ

子どもたちへの読み聞かせの会

日時：7月7日(土) 2:00より(開場1:30)

場所：ミラリオ第二集会室2階

七夕のお話等を予定しています。

新会員も募集しています。

連絡先は、

田中 典子 (TEL:211-0627) または茅野 佳代子
(TEL:275-0225) まで。

一都市景観に配慮した街づくり

・さいたま新都心(埼玉県さいたま市)

さいたま新都心地区は、埼玉県さいたま市(旧浦和市・旧大宮市・旧与野市の3市が今年5月に合併して誕生)にある旧国鉄大宮操車場跡地を中心に、都市機能更新型の土地区画整理事業により約47.4haの街づくりが進められ、昨年2月から住宅の入居開始、4月に新駅開業、5月に街びらきが行われました。

国の合同庁舎やさいたまスーパーアリーナ等といった大規模施設建設と道路整備が同時施行で行われましたが、特に建物低層部・敷地内空地等の半公共空間と歩道のデザインについて、公団も含めた事業者間で協議会を立ち上げ、設計調整・合意形成を図ることによって、歩行者にやさしい、魅力あふれた都市景観がつけられています。

また、夜間の景観についても配慮がなされており、公共空間の照明デザインだけでなく、建物を含めた地区全体としての景観デザインをつくりだしています。



賃貸住宅のお問い合わせは
総合募集センター津田沼案内所
TEL:047-478-3711
公団住宅の駐車場のお問い合わせは
日本総合住生活(株)千葉支店

都市公団



■地図好きですね。家の壁にかけるのも、絵画やポスターなんかじゃなく、やっぱり、この境界の1万分の1の地形図を貼り合わせて巨大にしたものに限りです。値段の高い住宅地図がポケット版で安くでたときには、小躍りました。ベイタウンの地図も、イラストマップかなにかで作りたいなと思うんですが、残念ながら絵を描く才がまったくありません。だれかいいますかあ。

茂木俊輔 (#7-301/T&F211-1066/m38032@pp.ij4u.or.jp)

■ベイタウン祭りの時にベイタウンニュースでは毎年「板東屋」という商号で駄菓子屋をやっています。毎年気になるのは、子供たちが駄菓子を食べながら包み紙をその場に捨てること。気がつくたびに「こら、こら！ゴミはゴミ箱に捨てんか！！」と言っていました。終わってから周りを掃除していたら、あるわ、あるわ駄菓子のゴミが……。そう言えば大人の中にも平気でゴミを捨てる人がいるので子供ばかりが悪いわけではないが……

金一剛 (#3-220/T&F:211-0388/ikkim@xa2.so-net.ne.jp)

■佐藤記者の力作「4周年記念の年表」、もう御覧になりましたか？ 私の場合、神戸から引っ越してきたのが1998年の6月末なので、ニュース編集部に入ってから約3年が経過した事になります。最初は「備えあれば嬉しいな(16号)」という阪神大震災での自分の体験・対処法記事、つづく17号では、8/26のベイタウン全体の停電の話…と、防災関係の記事を書いていたのを見て、(最近自分自身も防災意識が薄れてきているな〜)と、反省しました。また、サポーターの記事では限られた人数の方々しか紹介できませんでしたが、創刊当時から配布を手伝って下さっている自治会・各委員会・エコパークをつくる会、ベイタウンネットのスタッフの皆さん、いつもありがとうございます。街の皆さん、これからもベイタウンニュースを宜しく願いいたします。(ベイタウンニュースのバックナンバーはインターネット上の“ベイタウンネット” <http://www.baytown-net.com/> のリンクコーナーにあります。)

浜田貴代子(公園東の街/atmark@pop01.odn.ne.jp)

■今年年表を作ってみて、「アアあんなこともあった、こんなこともあった」と、1〜6番街が寄り添うようにポツンと建っていた頃の情景が浮かんできました。あれから何と素晴らしく変貌を遂げたことでしょう。ハードの面だけではありません、住民主催のベイタウンまつりをはじめ、住民が粘り強く取り組んできたコミュニティコアやエコパークも実現しようとしています。“自分たちの街”という居心地のよさを、やっと最近感じるようになりました。佐藤則子 (#3-310/T&F:211-0090)

■4周年だからという訳ではないですが、創刊の頃からのベイタウンニュースを改めて読み返してみました。いや〜、あんなものをよくカラーで出していたもんです。写真はピンボケ。誤字脱字は当たり前。印刷物としての出来から言えば4年間の積み重ねは確かにあったようです。しかし、記事の中身はというと単純には進歩したとも言えないようです。創刊当時のものには、何よりも街作りへの熱気がありました。文章にも切っ先の鋭さがあったように思います。現在のものが悪くなったとは思いますが、プリミティブなものが失われ、印刷物としての完成度の高さと毎号切り抜けてはいないか。4周年を迎えるの自戒であります。

松村守康 (#10-612/T&F:211-6853/m-matz@mxq.mesh.ne.jp)

毎週、水曜と土曜日の午後7:00、打瀬中学校には剣道着を着た剣士たちが集まる。地域の剣道クラブ「打瀬一心会」の練習だ。肩には竹刀を担ぎ、面や小手などの防具を持って、親子で通ってくる人もいる。グランパティオス公園東の街に住む、清水さんもその一人。

清水将雄さん グランパティオス公園東の街在住

清水さんが剣道を始めたのは、今は小学4年生になったご長男が、前に住んでいた高浜の剣友会に通い始めたのがきっかけ。高校時代には空手で鳴らしたという清水さんは、剣道をやや低く見る傾向があったそうで、最初は送り迎えを仕方なくやっていたという。しかし一度馴染んだ武道の血が騒ぐのか、送迎だけでは物足りなくなり道場の門をたたいた。四年前のことだそう。

東の街コミュニティのメンバーとして積極的に活動する清水さん。先日のベイタウンまつり綱引き大会でも東の街を優勝に導いた立役者のひとりだ。取材でやりとりするEメールからは、非常に自由で柔軟な発想力が伺えたが、一度道場の敷居をまたぐとその表



清水さんが剣道を始めたのは、今は小学4年生になったご長男が、前に住んでいた高浜の剣友会に通い始めたのがきっかけ。高校時代には空手で鳴らしたという清水さんは、剣道をやや低く見る傾向があったそうで、最初は送り迎えを仕方なくやっていたという。しかし一度馴染んだ武道の血が騒ぐのか、送迎だけでは物足りなくなり道場の門をたたいた。四年前のことだそう。

情は一変する。長身で高い位置の面（防具）の奥から鋭い眼光で威圧する姿には、取材とはいえ記者もカメラを構えながら思わず気遅れしてしまった。20人近くの子どもの相手を清水さんたち6人の大人が先生役で受け持つ。運動量は相当なもので子どもたちの息は上がるが、先生たちは休むことなく稽古をつけて行く。譲り合っている子どもがいると、「どんどん空いているところでやりなさい！」と声が飛ぶ。息を切らせながらも向かって行く子どもたちの姿が印象的だった。普段東の街では潮干狩りなどを企画し、子どもと遊ぶには親が先に楽しむことを持論にする清水さんだが、一面で非常に厳格な顔も見せる。

中学生の頃は教員になることを夢見たという清水さんが今子どもたちに伝えたいことは、「折れない心とけじめ」。3人のお子さんを育てる父親として、この点にはこだわっている。東の街コミュニティの仲間とともに、ベイタウンの子育てに父親参加の新しい風を送るだろう。【松村】

打瀬一心会

千葉市剣道連盟、千葉市少年剣道連盟所属 練習は毎週水、土曜日7:00から、打瀬中学校校武道場。会員は30名（子ども20名）。申し込みは桑原さん（TEL:212-5154）。



街歩きとも連携して巨大地図づくり

ベイタウンまつりで巨大地図づくりを始めて3年目。今年は、街歩きの企画と連携して、午後2時から2時間ほどベイタウンの中を案内役に連れられて歩き回ってもらったあとに地図上に感想を書き込んでもらう、というスタイルもとりました。もちろん、まつりの会場を歩き交う人に、要望や不満や気付いたことや知っていることなど、特定の「場所」に関係することをなんでも書き込んでもらう、という基本のスタイルは変わりません。おかげさまで今回は、1999年の100、2000年の128を大きく上回る215もの声を集めることができました。

内容はいろいろ。もともとは、地図づくりを通して街への関心や理解を深めようという試みをできるだけ力をかけずに実現しようとのねらいで始めただけに、高尚な意見・要望・評価などなど、これからの街づくりに役立つような声を期待していました。ただ、通りがかりの人に、細かな制約を課すことなく書き込んでもらうというやり方だけに、なかなかねらいどおりにはいかないのが現実です。なかには落書きめいたものもありますが、それはそれで、とりわけ子供の書いたものの場合、本音を吐露する「生の声」として貴重な



な、とも思っています。

こちらで想定していたとおりの内容としては、住民としての要望があります。ベイタウン内の施設・店舗要望に限って言えば、99年は「スポーツショップ」「ラーメン屋」「居酒屋」「銭湯」「ゴルフショップ」「レンタルビデオ」「コンビニ」「駐車場」、2000年は「交番」「スターバックス」「レンタルビデオ」「ケーキ屋」「ミスタードーナツ」「オープンカフェ」「文房具屋」「画材屋」「パン屋」「インターナショナルスクール」「幼稚園」「ダンススタジオ」「耳鼻科」「郵便局」、今年は「ラーメン屋」「焼鳥屋」「交番」「おもちゃ屋」「野球場」「100満ボルト」「ゴルフ練習場」「動物園」「そば屋」というようなラインアップでしょうか。「ラーメン屋」「レンタルビデオ」「居酒屋（焼鳥屋）」「交番」「郵便局」あたりは根強いですね。郵便局に関してはすでに、千葉県企業庁で郵政サイドとの間で誘致交渉を進めているのでまあよしとして、ほかはどうなのでしょう。計画の段階では想定していない業種ばかりなので望みはうすいのか、このあたりは機会を改めて。【茂木】



20年後 100年後へのメッセージ

平成13年は、市制施行80周年にあたります。千葉市では、それを記念して、タイムカプセルを埋設することになりました。千葉市内の小・中・養・高等学校の児童・生徒が、未来へのメッセージを封入しました。

打瀬小学校では、4年生の児童が、「20年後の私」というタイトルで、海浜打瀬小学校では、開校を記念して、学校紹介を全学年の児童が、それぞれ作品(作文)を作成しました。今回のきょういくベイタウンでは、その中からいくつかの作品を紹介します。

20年後の私へ

打瀬小

20年後の自分へ 4年 寺下 沙貴さん

元気になっていますか。夢の水泳選手になれてオリンピックに出られましたか。かなってればいいけど。あと、私が一番聞きたかったこと。まだ、相変わらずラーメン食べてる？ 食べすぎには注意！！
それでは、いつまでも元気で。

20年後の自分へ 4年 前田 瑞穂さん

お菓子屋になれた？それともほかのになった？うらやましいよね。きっとどの家もテレビ電話なんですよ。
変わっているよね今は。町はソーラーカーばかりだったりして、テレビは、どんな物になっているのかな。私も行きたいよ20年後に。

20年後の自分へ 4年 大野 泰典君

夢はかなったかな。サッカー選手になってがんばっていますか。50mは何秒出せましたか。5秒台でがんばってください。
新しい車やテレビはすばらしい物になっているんでしょうね。本当の29歳になったら、空を飛ぶ車を運転して空を飛び回りたいです。

海浜打瀬小

学校の好きなところ

- ◎ ぼくは学校が好きです。いろいろなことができるからです。(1年 はま けんしゅう君)
- ◎ ぼくは校庭が好きです。上りぼうを登るのが大好きです。(1年 かざみ しおん君)
- ◎ 私が大好きな所は、ワークスペースです。なぜかという、本を読むアルコーブがあって、相談する時に使うすと机があるからです。そこには、みんなが作った自己紹介カードや、理科の「草花や虫をさがそう」で発見した草花や虫を観察したカードが貼ってあります。そこで、これからも本を読んだり、勉強したりしたいです。(3年 竹中 瑠奈さん)
- ◎ 私たちの学校、海浜打瀬小学校は、開校1ヶ月。まだ、どこもすごくきれいです。このきれいな学校に通えるのがとてもうれしいです。でも、委員会もクラブもまだ決まっていな、校歌も校章もまだ決まっていません。だけどこの学校に来てよかったことは、私たちが作っていけるということです。私たち5・6年生がこの学校を作っているからです。それが楽しみです。(5年 齋藤 瑞恵さん)

こんな学校です

- ◎ 私の学校はね、迷路みたいなんだよ。明るくて、広くて、給食がおいしいんだよ。私は、2年2組なんだよ。あと、ワークスペースに、かわいいハムスターがいるんだよ。海浜打瀬は、楽しいんだよ。図書コーナーは、電車みたいになっているんだ。他にも、ワークスペースにアスレチックみたいのがあるんだ。でも、アスレチックみたいなところは、遊ぶところじゃないんだよ。この学校は、じゅうたんやテーブルがカラフルなんだよ。
(2年 いっしき さきさん)
- ◎ ぼくたちの学校は、とてもきれいな新品校舎です。教室はオープンルームになっていて、まるで学校ではないみたいです。また、窓からの景色はあきないほど最高です。アリーナ（体育館）も広いし、屋上にプールがあるなんて、ぼくはこの学校に来てとてもよかったと思います。校庭はとても設備が整っていて、完璧と言えるぐらいです。ぼくはこの学校にずっといたいんです。この学校を汚さないで、ず〜っと世界一になれるようにしたいです。
(4年 千代田 聖怜君)
- ◎ 私たちは、打瀬小学校の人数が多くなり、新しく開校した海浜打瀬小学校に来ました。初めて来た時、すごく大きな学校で、千葉市で、海に一番近い学校だということを知りました。中に入ってみると広くて、ドアがないオープンスペースでした。また、全部新品だったのでうれしかったです。私の好きな教室は、6年2組です。いつも楽しいクラスが好きです。10年たっても、100年たっても、私たちが大人になっても、夢がいっぱいの海浜打瀬小学校がいいと思います。
(6年 川松 範子さん)

打瀬中学校

打瀬中学校では、去る5月8・16日の二日間に分けて、5時間にわたる長時間の議論の末各委員会の年間活動計画が決まり、いよいよ本格的に生徒会活動が始まることとなりました。

《本校生徒会を代表する会長池田正剛君と生徒会担当顧問辰野安弘教諭の生徒総会を終えての声を紹介します》

〔生徒会長：3年B組 池田 正剛〕

・大変な行事の一つ、生徒総会が終わりました。4月早々準備を始め、苦勞の連続でした。夕方遅くまで残り代表委員会で話し合い、全校生徒分の議案書の印刷をしました。また募金活動(カーネーション募金)が重なり大忙しでした。議案書を作り終え、ほっとする間もなく生徒総会当日を迎えました。当日は白熱する議論の末、予定の3時間では終



わらず、次回の生徒集会の時間へ持ち越

されました。合計5時間の創立以来いまだかつてない長時間にわたる生徒総会でした。総会が終わり、手元に残ったのは一冊の議案書。それは、生徒全員が活発な意見交換を行い作りあげた大切な宝物のようになりました。

学級委員のみなさん、各専門委員会の委員長さん、議長さん、そして全校生徒のみなさん本当にお疲れさまでした。そして生徒総会を大成功させることができ、ありがとうございました。これから一年間議案書に添って、よりよい学校にしていきましょう。これからの生徒総会での議論の本領が試される時です。一緒に頑張りましょう。



〔生徒会担当：辰野 安弘〕

・生徒総会は、生徒会活動について昨年度の活動報告と決算の承認及び今年度の活動計画と予算を話し合う場です。

打瀬中学校では、生徒会活動がとても活発であり、この会議は多くの質問や意見が出るので、代表委員会のメンバーはとても大変です。まるで国会の代表質問のようにどんどん浴びせられる質問や意見に対し、的確な答えを出さなければなりません。そのため、各委員長は相当な準備をして総会に臨んでいます。

今回の総会は2日間にわたり、5時間をかけて話し合われました。中には教師がすぐに出て解決できる問題もありましたが、生徒が主体的に解決することが大切だと考え、じっくり話し合いを見守りました。

自分の考えを理解してもらえずに悩んだり、議事の進行が難しく困ったり、本当に大変だったと思います。担当の私としても、もっと的確なアドバイスができなかったものかと反省しています。今後、この話し合いの結果を実行に移していかなければなりません。生徒会本部、学年生徒会、各委員会の主催するたくさんの行事を成功させて、この苦勞が報われるように期待しています。地域の皆様、どうぞよろしくご支援ください。